

剣道

No. 151

11・12・1月号
三木市剣道連盟
広報部
2011(平成23)年
1月29日(日)
発行

- 第31回三木市民剣道大会結果(1・2・3面)
- 第57回兵庫県剣道優勝大会(3・4・5面)
- 第57回兵庫県高等学校新人剣道大会(5面)
- 会長年頭挨拶(6面)
- 東播地区協議会練習会(7面)
- 年末、年始の行事(7・8面)
- ◎本紙は、紫雲館剣道場ホームページ(www.eonet.ne.jp/~tkomu/siunkan/index.htm)にも掲載中。PDF形式で印刷できます。今後郵送不要の節は連絡ください。

第31回三木市民剣道大会 形試合個人戦

各部でライバルが激突!

第24回三木市少年スポーツ大会(剣道の部)兼第31回三木市民剣道大会は、11月21日(日)、吉川総合公園文化体育館で行われ、少年から一般人まで、丸一日の行事として行われた。

大会に先立つ全競技参加の総合開

会式(於三木

山総合公園競

技場)には、

当番種目とし

て、三木中央

教室主将の伊

藤啓太君が選

手宣誓を力強

く行った。

開会式前の

合同稽古には

選手伊藤啓太宣誓



全出場者、役員、審判団が参加、高橋会長以下審判団が元立ちになり、小学生、次いで中・高校生が次々に掛つて、約50分間汗を流した。

開会式には、大会会長、松本明紀三木市教育長が挨拶され、続いて挨拶に立った高橋剣道連盟会長は、幕末の剣客で、蝦夷(えぞ)の三蔵と称えられた平山行蔵を取り上げ、奇人とまで言われた平山行蔵の「治に居て乱を忘れず」を常に心がけ、人間のもつ能力を最大限に引き出すべく、過酷な鍛錬を自己に課し、不断に体を鍛え、武術を練り心法を工夫した一生を紹介した。そして「兵法は進退ここにきわまって一生に一度に役立てるものなり」という教えは、たゆまず鍛錬して心身を正しく保ち、

一生一度まさかの時に役立てるものが武道というものであり、平山行蔵は自らの生涯でそれを示した人である。剣道を修業する我々は、まさかの時に卑怯な振る舞いやうろたえがあつては生涯の恥辱、彼の生きざまを見習うべきだと説いた。

来賓として臨席した武田市議会副議長が議長挨拶を代読された。

小紫前会長に

感謝状贈呈

優勝杯返還後、小紫邦夫前会長(現名誉会長)に対して感謝状並びに記念品が、高橋会長から贈呈された。感謝状の文面以下の通り。

三木市剣道連盟

感謝状

名誉会長 小紫邦夫 様

あなたは、昭和二十八年三木市剣道連盟創設以来の会員として半世紀にわたり運営を担われ、平成十二年から十年間、第四代会長として剣道普及にご尽力されました。また兵庫県・東播剣道連盟、市内外スポーツ団体、行政関係機関と絆を深め連盟の発展に貢献されました。その功績は誠に顕著で他地域の剣道仲間からも羨む組織を確立されたことは我々の誇りであり剣道人の鏡であります。ここにささやかながら記念品を贈り、感謝の意を表します。

平成二十二年十一月吉日

三木市剣道連盟会長 高橋洋三



小紫氏へ感謝状を贈る高橋会長

試合は10時45分から開始され、四コートで展開された。

小学生5・6年男子の部

**赤松伸哉（志染） 善戦
優勝は浅井優輔（吉川）**



小学生4年以下女子



小学4年以下年男子

小学4年生以下女子の部では、別所の成瀬が延長戦を制し、優勝を果たした。小学生4年生以下男子の部では、上位独占を狙う吉川勢に対し、別所の生友琢磨が食い下がり、姉弟ダブル優勝と意気込む岡坂蓮至吉川、4年を決勝で下し優勝した。



小学5・6年女子

小学生5・6年女子の部では、前述岡坂姉が自由が丘の内村、前山を退けて優勝した。例年もつとも参加者が多く、好試合が期待される小学生5・6年男子の部は、今年は参加小学生の減少に伴い22名の参加



小学5・6年男子

にとどまった。これも吉川勢優勢の中、志染の赤松伸哉（5年）が予想以上の健闘を見せ、優勝した浅井優輔（吉川、6年）に最後まで食い下がり延長戦の末1本負けを喫する好

日本剣道形の試合

抜群の緑が丘チーム優勝

昼休みをはさんで、各教室対抗の日本剣道形（5本目まで）の試合が行われ、くじ引きによる組み合わせのもと、二度の形講習会を受けた教室代表各一組が、その完成度を競った。



日本剣道形の部

審判は、池田公律指導顧問を主審に、小椋、武中両教士7段が副審としてあたり、全試合判定の3本の旗がきれいに揃ったその判定の下優勝を飾ったのは、抜群の仕上げを見せた緑が丘SSD剣道クラブの藤原玄選手（4年）・谷淵一志選手（6年）であった。準優勝は、鋭い気合で息の合った形を披露した別所少年剣道教室の中谷琢哉選手（6年）・成瀬佳奈選手（6年）だった。

山口優輝 実力発揮

中学生の部を制す

中学生男子の部は、三木・自由が丘両中学校の部員が中心だが、3〜4人のリーグ戦を勝ち抜いてベスト4に残ったのは、吉川、石田諭史、自由、低田健、中央荻野隼人、自由山口優輝だった。自由中の山口は、王者上野旺二を下して準決勝に進出した荻野を、出コテに切って取り、決勝では中学生とも思えない玄妙な技を見せる石田を、1本1本勝負の後石田得意のコテをしのいでメンで決め優勝した。価値ある優勝だった。



中学生男子

中学生女子

高校は小野高勢圧勝

高校生は、今回県大会と日時がダブらなかつたため、市内各校の剣道部員は全員が出場した。結果は三木市内3高校振るわず、3名が出場した小野高校剣道部員が揃って入賞した。



高校生女子



高校生男子

加村爽やか初試合

澤田薫（市連盟幹事長）貫緑の優勝（一般壮年の部）

一般成人の試合は、年齢の比較若い層は青年の部、五十歳以上を壮年の部と分けているが、青年の部では、吉川の堀選手が、木下選手と熱戦を展開、最後にメンを決めて優勝した。壮年の部では、8名がエントリー。話題をさらったのは、剣道を始めて1年そこそこの新人、加村新初段。神澤文和5段に挑戦し、双方なかなか決まらず、最後にコテで仕留められたものの大奮闘であったため、場内からは大きな拍手が送られた。優勝戦は前回優勝の植田善博選手をコテで退けた澤田薫選手が、神澤文和選手をメンで破り優勝した。



大会後、審判長講評で安栖敏夫氏は、日本剣道形の試合で優勝した緑が丘チームの努力を称えた後、吉川勢の小学生とも思えない試合巧者ぶりを褒め、教える先生の力量、それによく従っている選手諸君を激賞した。また、初心者でありながら試合に挑み、思いがけない健闘を見せた加村選手の無心、さわやかな戦いぶりを絶賛し、今後加村選手に続く新人が多数出現することを期待すると語った。（入賞者は次ページに）

第31回 三木市民剣道大会各部入賞者 (敬称略)

《日本剣道形の試合結果》

- 優 勝 緑が丘SSD剣道クラブ
- 準優勝 別所少年剣道教室
- 3 位 自由が丘少年剣道教室
- 3 位 志染SSD剣道部

《個人戦各部の結果》

- 【小学生4年以下女子の部】
 - 優 勝 成瀬沙弥 (別所)
 - 準優勝 日高光桜 (中央)
- 【小学生4年以下男子の部】
 - 優 勝 生友佑磨 (別所)
 - 準優勝 岡坂 蓮 (吉川)
 - 3 位 橋間祐仁 (吉川)
 - 3 位 森本一成 (吉川)
- 【小学生5・6年女子の部】
 - 優 勝 岡坂和奏 (吉川)
 - 準優勝 前山有彩 (自由)
 - 3 位 岡田あかね (志染)
 - 3 位 内村友美 (中央)
- 【小学生5・6年男子の部】
 - 優 勝 浅井優輔 (吉川)
 - 準優勝 赤松伸哉 (志染)
 - 3 位 橋間祐生 (吉川)
 - 3 位 中谷琢哉 (別所)

【中学生女子の部】

- 優 勝 小淵恵里香 (吉川)

【中学生男子の部】

- 優 勝 山口優輝 (自由中)
- 準優勝 石田諭史 (吉川)
- 3 位 荻野隼人 (中央)
- 3 位 低田 健 (自由中)

【高校生女子の部】

- 優 勝 濱名さやか (三木高校)
- 準優勝 胡谷友香 (三木東高校)
- 3 位 井上真結子 (三木高校)
- 3 位 中谷梨香 (三木高校)

【高校生男子の部】

- 優 勝 安福大貴 (小野高校)
- 準優勝 室谷周良 (小野高校)
- 3 位 前川裕孝 (三木北高校)
- 3 位 松井研介 (小野高校)

【一般男子青年の部】

- 優 勝 堀 祐一郎
- 準優勝 木下 穂玄

【一般男子壮年の部】

- 優 勝 澤田 薫
- 準優勝 神澤 文和
- 3 位 植田 善博
- 3 位 中谷 忠資

「第57回兵庫県剣道優勝大会」

意気揚がる三木剣連チーム

Aチーム 2年連続ベスト16入り



試合に臨む三木市Aチームのメンバー

11月23日(祝)神戸市立王子ス
ポーツセンターで行われた「第57
回兵庫県剣道優勝大会」(参加101
チーム)に、我が三木市剣道連盟か
ら今年もA・B2チームが出場した。
Aチームが戦ったのは、第1試合場
(全部で6試合場)。17チームがこ
こで予選を戦う。この第一試合場
には、3年連続優勝を果たした兵庫県
警察剣友会Bと、先の東播8市親善
剣道大会で我が三木市チームが苦杯
をなめた西脇市剣道連盟Aもいる。
我が三木市Aチームの陣容は、監
督安栖敏夫成人指導部長、先鋒：西
本英一郎4段、次鋒：木村文教5段、
中堅：小林隆仁5段、副将：片田和徳
5段、大将：松本克基5段、補欠：澤
田薫5段、神澤文和5段である。

緒戦は、「兵庫県庁剣道部」と対戦。実力は双方互角。先鋒西本、次鋒木村と幸先良く先取した後、中堅小林、副将片田が引き分け、大將松本が1本負けしたものの、2対1で勝利する。硬さがとれない試合だったが何とか緒戦をものにした。

	大	副	中	次	先	1/1	
兵庫県庁	巾坪	松田	亀田	羽賀	勝山		
三木 A	松本	片田	小林	木村	西本	3/2	

2回戦は来年の東播8市大会の強敵である「西脇市剣道連盟A」先鋒西本2本負け(メン、コテ)の後、次鋒木村が譲らず引き分け、中堅小林が先先の攻めで2本勝(メン、メン)して試合を振り出しに戻し、副



山本選手(西脇)表選は1本勝負だ。選にもつれ込む。代選は西脇Aの大將は山本選手。我が三木の中堅小林は先の東播大



会に於いて彼に2本負けを喫していた。安柄監督は大將松本に替え、あえて小林にリベンジを命じた。

の期待に応え得意技のメンで仕留め、決着した。小林見事そ

	代	大	副	中	次	先	2/1	
西脇 A	山本	山本	名越	藤原	山田	高岡		
三木 A	小林	松本	片田	小林	木村	西本	2/1	

第3回戦は「神戸大学剣友会」。先鋒西本1本勝ち、次鋒木村もメンの1本勝ち、続く小林も同じくメンの1本勝ち。副将片田敗れたものの、大將が引き分け3対1で勝利。

4回戦は強敵「兵庫県警察剣友会Bチーム」3年連続優勝の実力ナンバーワンチームである。先鋒西本果敢に挑むもコテの1本負け。次鋒

	大	副	中	次	先	3/3	
三木 A	松本	片田	小林	木村	西本		
神大剣友会	渡	辻原	井ノ口	五百旗頭	東條	2/1	

木村も2本とられて早王手。ここで踏ん張ったのが好調の中堅小林、メンの1本勝ちで次につなぐ。副将片田、大將松本、一步も引かず善戦したが引き分けに終わったため、ついに2対1で敗れた。「内容的には双方互角の戦いで惜しい一戦だった」とは、監督の弁。

	大	副	中	次	先	3/2	
県警剣友会 A	武	西村	網切	小川	岡本		
三木 A	松本	片田	小林	木村	西本	1/1	

善戦したBチーム 3回戦まで駒を進める

Bチームは監督：楡皮隆夫、先鋒：栗田良之助2段、次鋒：山北裕貴3段、中堅：小紫達矢4段、副将：大柴敏昭5段、大將：木下穂玄6段、補欠：近藤隆宣4段、江村直子3段、の陣容で試合に臨んだ。

優勝チームは兵庫県警察剣友会で、我が三木市Aチームはベスト16となり、2年連続の結果を出した。今大会の全体を通じて、特に小林選手(4勝1引き分け、代表選を含む)の剣捌きが光っていた。恒例の慰労会が「つぼ八大村店」で行われ、大いに意気が揚った。選手諸君は、来年三木市で開催予定の「東播八市親善剣道大会」の健闘を誓い合った。



善戦した三木市Bチーム

1回戦は神戸剣道会との対戦。次鋒戦で山北選手がメン2本を取って勝利。その他は全試合引き分けで、1勝4分けて1回戦突破。決め手を欠いていたが試合運びでは三木市Bが圧倒していた。
(1回戦)

神戸剣道会	大	小河	0/0
	副	吉田	2/1
中	大西	三木B	
次	小島		栗田
先	内藤	山北	

2回戦、対三菱電機姫菱会との対戦では、栗田が幸先よく2本勝つて山北も2本勝つて流れを作る。中堅は小紫に代わる江村、強敵相手に気迫の試合で殊勲の引き分け。勢いに乗った副将大柴選手、熟練の技、得意のメンで勝利をわがものにした。大将木下も強豪相手に引き分け、3勝2分けて3回戦に進出した。
3回戦は対学剣連チーム。さすがに歴戦の実力者をそろえたチームで歯が立たず、1本も取れずに完敗だったが、本大会3回戦への

出場という結果は立派だった。
(2回戦)

三菱電機姫菱会	大	香川	1/0
	副	宮嶋	6/3
中	谷英	三木B	
次	長瀬		栗田
先	島崎	山北	

(3回戦)

三木B	大	木下	0/0
	副	大柴	9/5
中	江村	学剣連	
次	山北		寺井
先	栗田	青山	

おめでとういきます

この日、開会行事で、平成22年度兵庫県剣道連盟功労者表彰が行われ、緑が丘SSD剣道クラブと田中司氏が表彰された。

第57回兵庫県高等学校新人剣道大会 兼 第21回高砂市長杯争奪高等学校剣道大会

平成22.11.27~28 於：高砂市総合体育館

《27日 男子団体戦》

男子団体戦は数年ぶりに参加した三木北高校、2年ぶりに参加した三木東高校、そろってベスト16(4回戦)まで勝ち上がった。両校ともくじ運に恵まれてはいたが、夏の強化練習や合宿など厳しい練習に耐え、毎月の遠征や練習試合での経験が生かされた結果だと思ふ。

三木北は優勝した関学に、三木東は強豪の東洋大姫路に敗れたが、内容的には決して悪くはない試合だった。両校ともメンバーの中には1年生が多く、未完成の部分もある。その点では今後さらに成長し期待できるチームだと思ふ。以下は、2校の対戦成績は次のとおり。

- 1回戦 三木北2-1太子
- 2回戦 三木北-神戸北 棄権
- 3回戦 三木北4-0宝塚西
- 4回戦 三木北0-4関学
- 以上により、ベスト16
- 1回戦 三木東-生野(棄権)
- 2回戦 三木東3-1尼崎西
- 3回戦 三木東3-2飾磨
- 4回戦 三木東1-4東洋大姫路
- 以上により、ベスト16

《28日 女子団体戦・男子個人戦》

2日目は、三木市自由が丘教室出身で、私立「須磨学園」在学中の、田中優貴

伊藤舞両選手が前年度優勝の同校の代表として開会式で揃って優勝旗並びに市長杯を返還した。試合は両名の活躍もあり須磨学園が3位に入賞。田中選手は優秀選手賞。

男子個人戦では、三木からただ一人出場した三木北高校の木田選手が、東洋大姫路高校の柳生選手に敗れた。須磨学園から出場した伊藤翼選手は、2回戦で育英高校の渋谷選手と対戦、延長の末メンの1本負けで惜敗した。

個人戦男子は三木北の木田、女子は三木の濱名(2年連続)の2名が参加した。各地区の予選を勝ち抜いた実力者ばかりが参加しているため勝ち上がるのは容易ではなく、木田は微妙な判定ではあったが初戦で敗れ、濱名も2試合目で敗退した。

女子団体戦では三木が唯一参加したが、3回戦で姫路飾西に敗れた。全体的に勢いがなく、本来の力を出せればもう少し何とかなっていた相手だけに、悔やまれる部分がある。今回の大会の男子団体において三木北と三木東がベスト16に入ったことは、近年、低迷していた三木勢としては優秀な成績といえる。剣道人口が減少しているとはいえ、東播のレベルは非常に高く(男女とも)県大会に出ることそのものが容易ではないが、来年の春の県大会を見据え県でベスト8(近畿大会出場権)を目標に、三木市内の四高校(吉川は残念ながら現在部員が0)で切磋琢磨しながら日々の稽古を重ねていきたいと思ふ。

年頭挨拶

三木市剣道連盟会長 高橋 洋三

明けましておめでとございませう。

三木市剣道連盟に所属される剣友の皆さん。高校生や中学生、それに各少年剣道教室の生徒のみなさん。今年も元気に剣道に励み、お互い強い体と不動の心を作りましょう。今年は無歳、干支にあやかつて大きな飛躍が期待されます。

私は、昨年六月の総会において、小紫邦夫前会長の後を受け、五代目会長を仰せつかりました。これまで小紫会長のもと、約十年間副会長として苦楽を共にしてまいりました。その間、小紫前会長の御人格に親しく触れ、氏の剣道に対するなみなみならぬ情熱と、組織にたいする献身的な姿勢を畏敬の念で眺めてきました。今日我が三木剣連がこのように相協力しながら斯道の発展に邁進しているのも、氏の貢献がいかに大きいかが痛感するところですよ。

私も、及ばずながら、皆さんのご期待に応えて、これまで営々築いてこられた歴代会長の路線を継承、更なる発展のために全力で働くことをお約束いたします。

さて、年頭に当たり、私は会員の皆様方に以下の三点についてご提案したいと思います。まず一つは、会員剣友の拡大です。最近の少子高齢化社会の影響が、我々の少年剣道教室も軒並み会員が減っています。これは全国的な傾向かもしれません。が、今世界的なブームの中で少年サッカーなどの会員はかえって増えているようです。サッカーにはそれだけ子供たちを引きつける魅力があるのでしようが、剣道には別の面でも魅力があり、生涯を通じて学び続けるに相応しい奥深さがあります。その点を強くアピールしつつ、これまで三木剣連に蓄積してきた経験をもう一度思い起こし、さまざま工夫で新入生を迎えましょう。また、一般成人には、初心者の方々を新たに迎えたいものです。これまでも

教室の保護者を中心に、剣道に挑戦してくださる方が居ましたが、それに加えて定年退職された熟年の方々もお誘いしてはどうでしょうか。とにかく組織を挙げて取り組むべき重要課題だと思います。

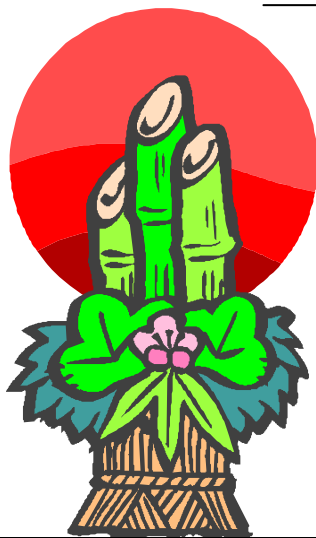
二つ目は、活動枠の拡大です。少年の部は各種の試合だけではなく、去年も教室の枠を越えた合同稽古や合宿での交流、ふれあい錬成会などが行われましたが、他地区の教室を招いたり、出かけていたりして世界を広げてはどうでしょう。高校でも昨年は多数の学校が三木東高校に集まって合同稽古会が行われましたし、一般でもこれまでにいなかった試合に新たに選手を送りました。年越し稽古には近隣の剣士も多数参加されました。今年は一層外にも出て、各種の稽古会で交流したり、進んで講習会に参加したりしたいと思います。

三つ目は、「心を鍛える」という課題に集中して取り組もうということですよ。「剣は心」と昔から言われますが、言っている「心」とは各人各様のとらえ方をしている、何かいま一つツキリしません。「剣の理法の修練による人間形成の道」が剣道なら、我々はどんな人間を目指して子供

たちに剣道を学ばせなければならぬか。また自分自身が到達すべき心の目標は何なのか、折にふれて意見交換しながら、よりシッカリした合意を目指したいと思います。剣道の表看板の礼法でも、ややもすれば形に流れ、道場以外の生活では相反する言動も見られます。私は「非常の事態の対処こそ、日頃の稽古の質が問われることに鑑み、「心を鍛える」剣道の中身を点検したいと思います。

今年、当番市として「東播八市親善剣道大会」が三木市で行われます。初優勝を目指す選手諸君は密かに期するものがあるでしょうが、三木市剣道連盟全体が緊張感をもつて、圧倒的稽古量でそれを支えたいと思います。

皆さんのご協力をお願いします。



東播地区協議会 稽古会に参加して

東播地区協議会主催の稽古会が、11月20日(土) 10時30分より加西市善防公民館内体育館で行われた。三木市から、高橋会長、安栖神澤(正)の3名とさびしかったが東播地区より約60名が参加。稽古会の前に、久保副会長の挨拶があり、準備運動の後、7段の先生方の元立ちが始まる。

一週間後に8段審査を控え、安栖先生をはじめ高砂市の鈴木先生、川端先生の稽古がいつもより厳しくしつかりした技が練り出されていた。また、全剣連より剣道有功賞を受賞される加古川市の堂阪俊夫先生は、82歳の高齢にもかかわらず元気に稽古されている姿に参加者は心を打たれた。



平成22年度 三木市
剣道連盟 稽古納め
12月19日(日)、9時から例年通り「稽古納め」が三木市民体育館で行われ、一般会員をはじめ多くの中・高校生、各教室の小学生等が汗を流した。いつものように稽古の前に掃除。手に手に雑巾、ほうき、がんじきを持った少年少女剣士たちや指導者が、「一年間お世話になりました」という感謝の気持ちで、三木市民体育館を清掃した。ピカピカになった道場で1年の納めの稽古。まず前半は小学生が掛かり、続いて中・高校生、一般会員が熱気のもった稽古を展開、ところ狭しと鋭い気合と竹刀の音を響かせていた。12時前、整列した会員を前に高橋新会長が年末の挨拶をし、約2時間30分の稽古を終えた。



三木市剣道連盟 年末行事 稽古納め、年越し稽古を実施

自由が丘中学校で 年越し稽古

例年行ってきた「年越し稽古」、昨年度(平成21年度)は、会場が確保できなかったため、やむを得ず中止となった。しかし、市外から参加されていた多くの剣道愛好家たちから、「やはり、剣道で年越しを」「また復活して」との声に応えるべく会場を探していたところ、自由が丘中学校の体育館を使用させていただくことが可能となり、実施の運びとなった。練習時間が、夜8時から10時までとやや短縮されたが、当日は約80名の人が参加、盛況となった。第一級の「年末寒波」が到来、夜にさして寒さが厳しく強風も吹き、雪も舞うという天候。しかし、道路は通行可能で、定刻前には続々と参加者が体育館に。毎年参加される川戸勝先生をはじめ、中尾先生、鈴木先生等、市外から参加されている「お馴染み」の先生方の顔も見られる。

午後8時、安栖指導部長の号令のもと、入念な準備体操が行われた。その後、全員で一年の最後の素振り。一振り一振り、自己の迷いや悩みを振り払うかのごとく、



または、この一年よく乗り越えたといった思いを抱いてか、それぞれが一心に振り下ろすうちに体も温まり、面をつけるとさつそくお目当ての相手を探して稽古を。久しぶりに剣を交える相手とはつい熱がこもり、いつもより長めの稽古となる人もいた。



終了の笛が鳴り、全員整列。高橋三木市剣道連盟会長が最後に参加者に対するお礼と、「剣は心というが、その心とはどんな内容を言うのか」「共に心を鍛えましょう」等と話し、新年への新たな決意を胸に黙想、全員で大みそかの夜を剣道の稽古で締めくくった。

26年続いた新春奉納少年剣道優勝大会に代わって

新春「稽古初め」を実施

於「コミュニティスポーツセンター」

新年1月第2日曜日と言えば、神社の境内を会場に野趣あふれる野試合、新春奉納少年剣道優勝大会と、ここ二十数年恒例となっていました。本年度より剣道連盟主催行事を見直し、さまざまな面で大会続行は困難との結論に至りました。代わって平成23年から連盟全会員と学生・少年が一堂に会して稽古を行う「稽古初め」を実施することとなり、去る1月9日（9時開会）三木コミュニティスポーツセンターに115名の参加者を集めて開催されました。

第一部で日本剣道形、居合道形を披露

第一部開会行事は、三木市剣道連盟高橋洋三会長の挨拶の後、アトラクションとして形演武が行われました。



まず、小学生による演武は、去る11月21日、三木市民剣道大会の形試合の部で優勝した緑が丘SSD剣道クラブ（谷淵・藤原）をはじめ、準優勝の別所少年剣道教室（中谷・成瀬）、3位の

自由が丘少年剣道教室（今福・岡本）、志染SSD剣道部（藤本・岡田）の計4組8名が1〜5本目までを披露。各教室の精鋭とあって、すばらしい形を披露しました。



文雄氏・西本義明氏・檜皮正氏・清原孝義氏の4名が登場。橋田氏が四方祓いの後、全日本居合道形・古流無双直伝英信流形5本を披露されました。

第一部の最後に登場したのは小椋治朗教士七段（打太刀）と田畑修錬士六段（仕太刀）。氣迫のこもった日本剣道形を1〜10本目まで披露。練習十分、息のぴったり合った見事な剣道形に拍手が起りました。



第二部 参加者全員で合同稽古

第二部は合同稽古。小中学生と一般会員が40分。休憩後、高

校生・一般が1時間稽古を行いました。新年最初とあって全員気合十分、鋭い気合が館内に響き、今年も元気で稽古に励もうと誓い合い、初稽古を終えたのでした。



2・3月の行事

- ★2月27日(日)第97回級位認定審査会…○9:00~10:30 実技審査及び木刀による基本技審査(2級:9本、3級:6本) ○10:30~11:30 合同稽古 会場:三木コミスポ
- ★2月27日(日)三木市スポーツクラブ 21交流フェスティバル小学生剣道大会 13:30~16:30 会場 三木市民体育館 《関連行事》
- ★県昇段審査会関係○2/6(日)初・3段(9:00姫路)○2/13(日)4・5段(9:00神戸)○2/20(日)称号(範士・教士・錬士)候補者選考会(13:00神戸)★各地の少年剣道大会○2月6日(日)社SSD40周年記念剣道大会 (9:00 滝野総合公園体育館)○3月6日(日)誠心館錬成試合稽古会(9:00~吉川町体育館)○3月20日(日)北播錬成大会(9:00西脇市天神池スポーツセンター)○3月27日(日)第34回東播少年剣道大会(9:00~加東市総合公園体育館)